【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和6年1月15日(2024.1.15)

【国際公開番号】WO2022/210786
【出願番号】特願2023-511426(P2023-511426)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　6/02(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　6/036(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　6/02　４６１
Ｇ０２Ｂ　6/02　４０１
Ｇ０２Ｂ　6/036

【手続補正書】
【提出日】令和5年9月4日(2023.9.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
一実施形態に係るコア識別方法は、上記マルチコア光ファイバのファイバ軸に直交する二方向からの側方観察像を取得し、側方観察像におけるファイバ軸に関する非反転対称性に基づき複数のコアを識別する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
上記実施態様に係るコア識別方法では、側方観察像の非反転対称性によりコアを識別することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
上記二方向は、互いに直交していてもよい。この場合、側方観察像の非反転対称性を最も鋭敏に検知することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
低屈折率部４０は、断面において、２つのコア１０間に設けられている。具体的には、低屈折率部４０は、断面において、ファイバ軸Ｃを中心とし、２つのコア１０のうちファイバ軸Ｃに近いコア１０の中心を通る円周を有する円Ｒ内に設けられている。２コア光フ

ファイバ１Ｆでは、２つのコア１０からファイバ軸Ｃまでの距離は、互いに等しい。よって、円Ｒは、ファイバ軸Ｃを中心とし、２つのコア１０の中心１０ｃをそれぞれ通る。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６７】
１Ａ，１Ｂ，１Ｃ，１Ｄ，１Ｅ，１Ｆ，１００…２コア光ファイバ
２，３…側方観察像
１０…コア
１０ｃ…中心
２０…クラッド
２０ｃ…中心
２１…光学クラッド
２２…物理クラッド
３０…被覆
４０…低屈折率部
Ｃ…ファイバ軸
Ｌ…線分
Ｍ…中間点
Ｒ…円

【手続補正６】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図８
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図８】

